

平成 19 年度最終報告書

(様式 10)

被助成者

(特活)アフリカ地域開発市民の会(CanDo)

コード番号

07-A-236

ケニア共和国東部州ムインギ県グニ郡における
エイズに対処する地域社会を形成するための男性対象トレーニング

実施期間：2007年11月1日～2008年11月1日

目次

1. 本助成事業の計画.....	2
1－1. 申請事業の背景.....	2
1－2. 事業計画	3
1－2－1. 目的.....	3
1－2－2. 計画.....	3
2. 実施報告	4
2－1. 概要	4
2－2. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング	5
2－2－1. トレーニング開催準備	5
2－2－1－1. 関係者との打ち合わせ	5
2－2－1－2. 参加者選出のための住民集会	5
2－2－2. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング	8
2－3－3. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング後の展開.....	10
2－3－1. 事業展開の再検討	10
2－3－2. 「地域の健康のための戦略会議」・「公開学習会」の形成	11
2－4. 成果と課題.....	12

1. 本助成事業の計画

1－1. 申請事業の背景

本申請事業の対象地域であるケニア共和国東部州ムインギ県グニ郡を含む 9 郡から構成されるムインギ県は、人口が 1999 年現在 303,828 人、首都ナイロビのおよそ 200km 東に位置する面積 10,030km² の地域である（1999 年国勢調査）。気候区分は、県内の大部分が半乾燥地域から乾燥地に属し、年間降水量は 1,000mm から 300mm、さらに毎年のばらつきも大きいため、メイズ・ソルガム・ミレット・豆類などの天水による畑作だけでは生計は成り立ちにくく、牛やヤギの牧畜も重要な生計手段となっている。グニ郡は県内でも農業生産力が低く、干ばつなどの影響を強く受ける脆弱な地域だが、地域住民の生計手段は、農業以外の産業ではなく、天水農耕・牧畜・養蜂を組み合わせた自給と生存のための農業生産に限られている貧困地域である。そのため、干ばつ時に緊急食糧援助に依存する度合いも高い。

グニ郡の公的医療施設は、グニ区グニ中央村にあるグニ保健センターと、ウカシ区ウカシ村にあるウカシ診療所のみで、ブブ区については存在せず、日常生活のなかでの公的医療機関へのアクセスは限定的である。

当会がムインギ県にて事業をはじめた 1998 年から 2002 年ごろまで、1999 年のエイズ国家災害宣言に拘わらず、対象地域においてエイズはそれほど身近な問題ではなく、ケニア西部やナイロビ・モンバサなど大都市に限定された問題であると認識されており、地域住民は、エイズに対して深刻な危機感はなかったようである。しかし、2004 年に当会がムインギ県ヌ一郡で実施した学校保健事業形成調査および、その後のエイズ事業展開のなかで、地域の多くの人々が身近なエイズ患者やエイズ死に接しており、「すでに誰もがエイズを体験している」と住民自身が認識する状況となっていることを確認した。

当会は、このような状況を「エイズの日常化」と定義し、地域のなかの広範な住民、女性も男性もが、HIV 感染経路が、性交渉ばかりでなく、剃刀・刺抜き・石鹼石・歯ブラシなど日用品の共用、HIV 陽性者の介護・出産介助など日常生活に多くあることを理解すること、感染リスクのある行為と「ない行為」とを区分できること、具体的な感染予防の知識・技能を身につけること、HIV 陽性者の家庭でのケアと地域でアクセス可能な最新の公的医療を知ること、そして、HIV 陽性者との社会的共生が可能であることに社会として合意することが重要であると考えていた。

1－2. 事業計画

1－2－1. 目的

本事業は、近年エイズが急速に深刻な問題となり、日常化している状況にあるケニア共和国ムインギ県グニ郡において、援助機関や政府・NGOからの保健・エイズトレーニングなどが、女性に偏り、男性への知識の提供が少ない状況に着目し、その偏在状況を是正するために、男性を対象者として健康とエイズ問題に対する意識・知識・能力の向上を促進することをめざすものである。

これにより、対象地域が、社会的公正を含む健康の概念に関連づけて、エイズ問題に包括的に取り組むことができるようになり、住民自身が自らを HIV 感染から守るための知識・技能を獲得し、HIV 陽性者・エイズ患者への適切なケアやエイズ患者・感染者と共生する社会を形成することに協力することをめざすものである。

1－2－2. 計画

1) 男性対象基礎保健・エイズトレーニング

対象地域において男性リーダーを対象とし、日常的な健康管理・疾病予防に役立つ保健ならびにエイズに関する知識・技能のトレーニングを実施する。トレーニングを通して参加者が、エイズ問題について、社会的公正を含む健康の概念との関連において包括的に理解し、トレーニングの後、地域での保健・エイズ情報の普及、広く住民を対象とするエイズ学習会の開催、子どもをエイズから守るための関係者会議の開催などへ、地域のリーダーとして積極的に取り組み、エイズ問題に対処する地域社会の形成に中核的な役割を担うことを目指す。

そのために、グニ郡を構成する 7 準区のうち 2 準区をパイロット準区とし、それぞれの準区より、上記トレーニングに参加することが適切であると住民が認識する参加者を住民集会にて 30 名を選出し、2 日間の基礎保健・エイズに関するトレーニングを実施する。

2) 復習トレーニング

上記の男性対象基礎保健・エイズトレーニングの参加者を対象に復習トレーニングとして、知識の再確認を行なうことにより、疑問点の解消や知識・技能の定着を促進する。また、保健・衛生知識ならびにエイズに関する情報が地域社会で共有されるための問題および解決方法を参加者とともに話し合う。当会からはエイズ学習会（当会専門家がエイズに関する重要な科学的知識を 3 時間程度で包括的に提供する会）および子どもをエイズから守る

ための関係者会議について提案する。

3) エイズ学習会

エイズ学習会は、住民組織から当会への開催の申請を受け付け、当会が専門家と調整員を派遣し、集まった地域住民に対して 対象地域の母語であるカンバ語で、ケニアにおけるエイズ状況、HIV 感染メカニズム、感染経路、エイズ発症プロセス、エイズの進行を遅らせる方法などについて説明したうえで、コンドームの使用方法について説明および実技演習を行なう。そして、学習会の後にはカンバ語版のエイズに関する情報を記載した冊子を配布することを通して、参加者が自らの復習に活用すること、また他の地域住民への情報共有を促進する。

4) 関係者会議

トレーニング及び復習コースの後、トレーニング修了者及び、当会の女性対象基礎保健トレーニング修了者、エイズ教育教員トレーニング修了教員を対象として会議を開催することで、地域社会において子どもをエイズから守るための行動計画について話し合う機会が関係者内に提供され、出席者の中でエイズ問題についての共通認識がもたれること、そして、地域における住民による主体的な問題対処についての合意形成が行なわれる。

2. 実施報告

2-1. 概要

本事業は、当会が初めて地域の一般男性を対象として基礎保健トレーニングを実施した先行的取り組みで、グニ郡を構成する 3 区 8 準区のうち、ウカシ区に属する 2 準区（ウカシ準区・カムティウ準区）において実施した。さらに、この成果をふまえて、グニ郡で実施している国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業へ反映させ、グニ郡の残りの 6 準区（7 地区）においても男性基礎保健トレーニングを実施した。

本事業は、さらに、男性基礎保健トレーニング実施後の展開として、参加者が地域の保健リーダーとして育っていくこと、その導入として、参加者が地域住民と話し合って、当会へエイズ学習会を申請することを想定していた。しかし、トレーニング参加者からは、地域で保健問題について先導する意欲が聞かれる一方、エイズ問題について主体的に先導する難しさや不安の発言と、当会が村に出向いて直接に住民へ情報を伝達することが重要であるとの意見が多く聞かれた。これまでの女性保健トレーニングの参加者による学習会申

請についても、住民との合意形成の難しさが言われ、学習会の申請・実施が低調な状況にあり、この想定していた展開を見直すこととした。

見直しにあたっては、ウカシ区での住民への聞き取り調査ならびに、当会の事業地全域でのエイズ学習会開催に関連した地域社会の様々な動きについての分析を行なって、これまでの「申請学習会」を継続しつつ、並行して新たな学習会の実施につながるアプローチを検討した。新たなものは、これまでの地域のリーダーが学習会開催について住民との合意を形成して当会へ申請するのではなく、当会が住民へ直接に提案して学習会を開催する「公開学習会」とした。また、学習会のテーマを、これまでのエイズに加えて、母性保護も選択肢として住民に提示することとした。さらに、この公開学習会を村で効果的に実施するには、村の公的リーダーである村長老の同意と協力が前提となると分析し、村長老との関係構築をはかり村長老との協働で公開学習会の形成をめざすことを優先課題とした。

2－2. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング

2－2－1. トレーニング開催準備

2－2－1－1. 関係者との打ち合わせ

地域の男性を対象とした基礎保健・エイズトレーニングの実施に向け、グニ郡の行政官事務所を訪問し、事業説明および実施への協力依頼を行なった。訪問は当会事業調整員と現地助手とで行ない、グニ郡長、グニ区・ブブ区・ウカシ区の区長及び、ウカシ準区・カムティウ準区・ムワスマ準区・キャビュカ準区・マジャカニ準区・ブブ準区・マラワ準区の助役を訪問し、トレーニング開催に向けて、まずはトレーニング参加者となる各準区からの代表を選出するために、準区単位での住民集会に出席し、事業への導入と参加者選出を行なうことで合意した。

2－2－1－2. 参加者選出のための住民集会

対象地域における住民集会は、行政機関からの住民への通達・情報の伝達や援助物資の供与機能の意味合いが大きい。たとえば、上位行政機関からの特定の情報についての告知、環境・保健問題などの啓発、緊急食糧援助の食料配布などの際に、郡長、区長、助役が主な召集役となって集会を開催する。内容や対象者によって集会の規模が決定され、郡全体を対象とするような集会は郡長によって、今回当会が参加者選出として活用した準区単位での集会は助役によって召集される。召集と日時などの通知は、郡長、区長、助役、そして最終的に村単位での住民への通知の役割を各村の村長老が担うかたちになる。村単位での集会を開催する村も中には見られるが、少数にとどまるようである。

住民集会の特徴として、広範に特定の情報を通達することに関しては、地域において大きな役割を果たしているといえる。しかしながら、あらかじめ伝えられる内容が決定され、トップダウンでの情報伝達の傾向が強いため、住民集会の場において参加者が意見を出し合って対話するのは難しいように観察される。また、対象となる地域の範囲が広くなれば、それだけ参加住民間が共有できる地域の固有性、共通認識などは薄れることが推測される。

トレーニング参加者については、保健・エイズに関する基礎知識や技能を身につけた参加者が、生活においてそれらを活用すること、そして、エイズ問題への取り組みを先導し、地域における社会的合意形成及びエイズ問題への地域社会としての対処において重要な役割を担うことを期待しており、そのためには、問題への意欲・関心を持ち、さらに住民からも信頼された人物を選出することが重要と考えた。住民集会を活用することによって、多くの人が集まる公の場にて選出することが可能になり、権力のある特定の人物の恣意的な意向に左右されにくい選出が可能になる。また、トレーニングの目的・趣旨が住民に知られることで、参加者が各地域に戻って、自律的に問題へ取り組む際に、動きやすい雰囲気ができていることに貢献すると考えた。そのため、地域住民が、既知の人物を選出できる人間関係の範囲で住民集会の開催することをめざした。そのなかで、開催の頻度がある程度確保されていることを考慮し、準区単位での住民集会を基本の単位とすることとした。

助成の対象となる準区における参加者選出のための住民集会についての報告は、次のとおりである。

1) ウカシ区ウカシ準区

2008年6月12日、ウカシ準区住民を対象とした住民集会に出席した。住民集会への参加は約120人あり、そのうち男性が4分の1程度であった。住民集会では、トレーニングの内容に関して、また今後の事業展開へ反映できる住民の意見を聞きとることをめざした。具体的に、地域でどんな病気や健康に関する問題があるか、保健分野でどういったことが知りたいか、また、今回の男性基礎保健トレーニングは準区で決まった人数を選出する形をとるが、他にどんな方法で情報などを得る機会があればいいと思うか、などを聞きながら話を進めた。積極的に反応する参加者も多かった。話し合いの内容も、初めは保健一般の話をしていたのが、途中からエイズに関する話へ方向性が進むということが見られ、住民の関心の高さが観察された。また、距離が遠いと参加しにくいということから、村ごとでトレーニングをしてほしいという要望が強く聞かれた。120人が、村ごとに分かれてそれぞれ話し合いを持ち、30人を選出してもらった。大多数は、その日住民集会に出席していた人の中から選ばれているようであった。

なお、この日、住民集会に多くの住民が参加したのは、同日この後に食糧配布があったことが関係していたと推察された。

2) ウカシ区カムティウ準区

4月24日、ウカシ区カムティウ準区を訪問し、選出を行なった。参加者は約35名の時点で開始され、終了時には41名が集まつており、15村中12村からの参加があった。この日参加者が少なかった理由として、雨が降って住民が農作業で忙しかったこと、またこの住民集会の目的自体が診療所建設の集金のためで、参加意思を持たない住民もいたことが予想された。参加者は少ないながらも、村長老、グループのリーダー、青年グループの議長など村のなかでリーダー的立場にある人が参加しており、住民との話し合いの後選出を行なった。トレーニングの参加者は各村から2人ずつ、若者と年配者の年齢のバランスに配慮して選出することになった。これは、世代によって普段頻繁に話をする人や人間関係のつながりが変わってくるため、なるべく多くの人に知識が伝わるようにとの配慮で、住民から提案されたものであった。全く参加者のいない村の選出に関しては、村の中で話し合ってもらい助役を通して当会に伝えてもらう形になった。

懸念としては、参加者が比較的少人数であったため、選出された人とそうでない人が、村の中で対立する要因にならないか、またトレーニングの開催自体が、住民に広く知られない懸念もあったため、再度この地域を訪問して、懸念された点を補うこととした。

男性に対して基礎保健・エイズトレーニングをすることへの参加女性の反応として、女性がトレーニングを受けて得た知識を男性に伝えても聞き入れてくれないため、男性が知識を得ることによって、それが実行されることになるとの期待の声が聞かれた。

6月20日、再度カムティウ準区の住民集会を訪問し、4月に実施したトレーニング者選出住民集会のフォローアップを行なった。住民集会の出席者は約70人、男性は約40人であった。前回出席者がいなかった村ではまだ選出が行われていないとのことであったため、この日の住民集会に参加している住民より選出してもらった。トレーニングの内容に関しては、病気の予防方法が知りたいという声があがった。また、今は思いつかないがトレーニングが始まれば具体的な考えも出てくると思うという声も出てきた。全体的に多く発言が聞かれるという様子ではなかったが、参加者は真剣に話を聞いており、興味がありそうな印象を受けた。

2－2－2. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング

男性を対象に保健・エイズトレーニングを形成するにあたって、次のことを考慮した。ひとつは、女性を対象とした基礎保健・エイズトレーニング修了者と連携し実施を促進できるような保健知識と技能の提供、次に、地域での男性の役割に配慮した内容、そして、男性の参加意欲と連続して参加可能な日数である。

対象地域でのこれまでの事業を通じ、また前述のトレーニング参加者選出のための住民集会からも、知識・技能の獲得にとどまらず、それらを活用し、実生活の中で生かし、また地域社会として問題への対処を合意していくには、男性の協力が重要であることが確認された。また、一般男性と女性や教員との知識・技能の格差が小さくなることは、地域のなかで自律的にエイズ問題に取り組む動きを促進する要素となると考えられる。そのため、女性対象のトレーニングで適用してきたような、包括的かつ実用可能な知識を男性に対して提供していくことが重要となる。

対象地域では、家庭での衛生管理や出産に関することや、日常生活における子どもの世話など、保健分野に関わる生活上の仕事は女性の役割とみられていることが、当会のこれまでの保健事業からも確認されている。同時に、エイズについて、もっとよく知りたいという意見を述べても、実際にトレーニングに参加することやエイズについて知るために具体的な行動を起こすこととの間に、大きな乖離も確認されている。これらに加え、男性は、近年の続く干ばつの影響で、日ごろから現金収入を得るために日雇い仕事を探していることが多いようで、女性対象トレーニングのように 5 日間拘束することが難しいと推察された。

また、トレーニング形成にあたって、男性の役割に着目した。たとえば、怪我や出産の際に起こる緊急事態に必要となる応急処置や運搬は、男性の役割が大きい。また、性交渉では、男女間の話し合いと合意が重要であると考えられるが、この点に関して、女性からの提案に男性が合意するのは困難である状況が聞かれている。

これらのことを考慮しつつ、検討を重ね、日数を 2 日間とし、内容を「病気」「母性保護」「エイズ」を項目と定めた。2 日間で取り扱える内容は限られているが、3 つの項目の中で関連してくると思われる要素を、それぞれの項目のなかにちりばめることで、時間の短縮を図りつつ、保健とエイズに関する知識を包括的に扱えるように工夫した。

実施したトレーニング日程と選出者数と修了者数は以下の通りである。

日程	準区	会場	選出者数	修了者数
2008年7月9・10日	カムティウ準区	NAC カンザウ	30	19
2008年7月18・19日	ウカシ準区	NAC ウカシ	30	14
	計		60	33

助成の対象となる準区におけるトレーニングの報告は、次のとおりである。

1) ウカシ区カムティウ準区

7月9、10日、カムティウ準区のカンザウ New Apostolic Church 教会を会場として、同準区の男性対象基礎保健・エイズトレーニングの第1回目を開催した。トレーニング参加者の30人の選出に対し、2日間を通じてトレーニングを修了したのは19名（9日参加者21名、10日20名）である。

この地域では、出席者の多くが村長老や住民グループの議長であるなど、地域で何らかの「役職」「役割」のようなものについている人たちであった。中には若い人も若干いたが、その多くが小学校に通う子どもの保護者など、みな、家庭を持っている人が選出されているようであった。役職について人が多かった理由としては、選出住民集会の際に集まっていた人が、そのような人たちであったことが関係しているのではないかと推察された。このことにより、参加者が既に村の中でリーダー的な立場にあると考えることもでき、今後の活動にとって肯定的な材料ともなりうる。

参加者は、2日間を通して集中して講義を聞いており、真剣に記録を取る様子も観察された。質問や発言も多く、性感染症や子ども、家庭に関するところでは自然と議論になり、当会専門家のファシリテーションもあり、参加者同士の話し合いがうまく引き出されていたと思われる。また、保健の知識も全体的に高く、年配者はこれまでの生活や経験を通して、若者は教育を通してある程度の知識を持っているようであった。年齢によって反応の違いもあり、母子保健の項目で扱った家族計画などは、年配層はあまり関心を示さなかった。トレーニングの最後には、トレーニング内容を受けての今後の活動計画を考え、他の参加者と共有する時間を設けたが、得た知識をまわりに伝えるといったことがよく挙げられたが、伝える対象が家族からということが多い多くの参加者から聞かれた。

2) ウカシ区ウカシ準区

7月18、19日にウカシ準区のウカシ New Apostolic Church 教会を会場として、同準区の男性対象基礎保健・エイズトレーニングを実施した。トレーニング参加者として30人の選出に対し、2日間を通じてトレーニングを修了したのは14名（18日15名、19日15名参加）であった。

参加者の中には教会関係者が複数おり、また村長者の読み書き・記録を補佐する秘書という役割を担っている人もいた。参加者の参加態度は活発で、多くの質問が出ていた。知識に関しては、部分的に知識が高い様子がうかがえ、中には当会開催の女性対象基礎保健トレーニング修了者の夫も選出されており、妻から知識の共有がされていることも確認された。性感染症や母性保護の一部、エイズなど性に関連する内容の部分で特に关心が高いことが観察された。また、性やエイズに関する内容の部分に関して、知識を得ようとしているというよりは、トレーニングの混乱を誘発するような質問をするなど、否定的な態度を示している人もいたが、これらの否定行動を抑制しようとする他の参加者の動きも見られた。

村のなかで地位のある高齢の男性は、これまでの経験や体験と自称する出来事を語り、新たな解釈を否定することによって、村のなかでのリーダーシップをとっているのではないか、という危惧があった。しかし、高齢の参加者のなかにも、トレーニングで提示される新たな知識を熱心に聞きとめ、書きとめ、積極的に理解しようとする態度を確認することができた。

2-3. 男性対象基礎保健・エイズトレーニング後の展開

2-3-1. 事業展開の再検討

本助成事業であるグニ郡ウカシ区カムティウ準区・ウカシ準区での男性対象基礎保健・エイズトレーニングの実施経験をふまえて、グニ郡内の他の準区へも展開した。これにより、2008年7月から10月にかけて、グニ郡8準区の9会場において実施し、全域で実施することができ、計125人が2日間のトレーニングを修了した。

トレーニング参加者からは、地域で保健問題について先導する意欲が聞かれる一方、エイズ問題について主体的に先導する難しさや不安の発言と、当会が村に出向いて直接に住民へ情報を伝達することが重要であるとの意見が多く聞かれた。実際に、カムティウ準区・ウカシ準区のトレーニング後に、参加者から当会へエイズ学習会開催の申請が行なわれることもなかった。

このため、男性対象基礎保健トレーニング終了後の保健事業の展開について、再検討する必要があると判断した。

当会のトレーニングを修了した男性が、村に帰って、エイズ問題について村人に情報を提供することも、村人を説得して当会へエイズ学習会の開催を申請することも、現状では大

変困難がともなっていると分析した。

まず、村の中で、エイズについて学習しようと提案したり、熱心に語ることが、村人から、逆に当人が HIV 感染者だろうと疑われ、社会的な排除の対象となるリスクをはらんでいることがあげられる。これは、行政がエイズ問題に取り組み始めた初期段階に、住民集会に HIV 陽性者を呼んできて、体験について語らせ、住民全般へエイズ問題への啓発を行なったこととも関連している、と当会ケニア人スタッフは分析している。

また、これまで行政や教会などが取り組んできたエイズ啓発が、エイズの不道徳性や危険性、不治を強調し、恐怖心を煽る形で HIV 感染予防を促してきたため、エイズへの危機意識は、住民のなかに広く深く根付かせることができた。しかし、このことが、逆にエイズについて、問題の本質を理解し、解決にむけた行動を志向する「対処意識」の形成を阻害しており、外部要因や制御不能なものに理由を求めたり、エイズを否定したり、思考停止に陥ったり、と村人の意識は、対処とは逆に働く傾向が強い。このため、エイズに関する新たな知識を得たとはいえ、村のなかでエイズに関する相談を受けたり、様々な議論の体験が少ない当会のトレーニング修了者にとって、村のなかでエイズへの取り組みを合意していくことには困難がともなう、と分析した。

すなわち、トレーニング修了者による村での自発的な活動に引き続き期待し、彼らへの今後も継続した村の保健リーダーとしての育成に取り組みつつ、現時点では、優先課題としては、村でのエイズ学習会を多く実現して、多くの村人に便益とするためには、新たな取り組みを開始する必要があると解釈した。

2-3-2. 「地域の健康のための戦略会議」・「公開学習会」の形成

この新たな取り組みについては、これまでの地域リーダーが自発的に当会へ学習会の開催申請をすることと対照的な形で、当会が村に入って村人へエイズ学習会の開催を提案し、彼らの同意に基づいて学習会を開催する「公開学習会」を形成することとした。

公開学習会は、当会の提案で村へ入ることになるため、村長老との関係構築が、新たな重要課題と確認された。村長老とは、行政官である区長・助役が、村ごとに 1 名任命し、行政からの通達や情報を伝えたり、村の出来事を行政に報告したりする無報酬の役職者であり、行政の末端機能である。村長老が、エイズについて、その詳細については知らなくとも、HIV 感染はある程度まとまった知識があれば日常生活のなかで予防可能であること、したがって、HIV 陽性者との共生が可能であることを理解し、村での公開学習会開催に同意し、村人の参加を促す役割を果たすことになれば、学習会が活性化される可能性が大き

い。一方、村長老が、エイズ公開学習会について否定的な見解をもっている場合、当会へは好意的な発言をしつつ、住民へは実質的に参加できない状況をつくることも可能である。村長老の本心での同意・了承がなければ、公開学習会の活性化は難しいといえる。

この村長老との関係構築と、その後の村での公開学習会を活性化させるために、当会と助役とが、対象準区の全ての村長老を召集して、「地域の健康のための戦略会議」を実施することとした。この戦略会議は、村長老のみを参加者として、彼らの上司である助役の同席のもとに、エイズに関する研修要素も付加しつつ、それぞれの村での健康に関する状況の分析や問題解決について話し合い、当会が村を訪れて公開学習会を行なうことの合意を形成することをめざした。また、公開学習会に先立って、「地域の健康のための村訪問」を実施することとした。この村訪問とは、学習会に参加する村人が、事前に学習会の概要を理解し納得したうえで、日時をあらためて学習会に参加するためのもので、インフォームドコンセントを重視するための過程と位置づけたものである。戦略会議では、それぞれの村長老と、具体的な訪問日程と場所を設定した。

なお、一連の再検討のなかで、これまでのエイズ学習会に加えて、母性保護学習会も新たに形成することとした。グニ郡では、隣接するヌー郡やムイ郡と同様に、妊娠・出産に関わる女性の死亡も頻繁に話題になり、日常的に発生している出来事のような印象があり、行政官からも地域の深刻な問題として指摘されている。当事者である若い女性に聞くと、出産に関する心配や恐れはあるのだが、男性や年配の女性は「普通のこと」とみているようでは意識の乖離がある。さらに、この1年ほど、公立診療所・保健センターへ産前検診を行ったほとんど全ての女性が、結果として「自発的」にHIV陽性検査を受けている。このことは、住民を産前検診から遠ざける新たな要因となっている。このような状況分析から、様々な危険分娩の兆候やリスクのある状態、産前検診のメリットなどを知識として広く共有することによって、公的医療機関へ当事者が自発的に通ったり、そのことを家族が支援したり、万一の事態に備える家族の体制をつくったりすることにつなげることが重要であると考え、エイズに加えて母性保護学習会を形成した。

2-4. 成果と課題

本事業は、これまで対象地域において、他の援助団体や政府機関が取り組んでこなかった男性を対象とした基礎保健・エイズトレーニングを実施し、同じ対象者への復習トレーニング、対象者が主導して取り組むエイズ学習会の開催、女性のトレーニング修了者や地域のリーダーとの関係者会議の開催を通して、対象地域が、社会的公正を含む健康の概念に関連づけて、エイズ問題に包括的に取り組むことができる社会を形成することに協力することをめざした。

しかし、男性基礎保健トレーニングの実施をとおして、目的を達成するには、トレーニング後の事業展開を再検討することが重要である、と判断して検討を行なった。その結果、新たな展開として、村長老との関係構築のための「地域の健康のための戦略会議」の形成、村長老との協力による「地域の健康のための村訪問」の形成、そして「公開学習会」の形成、さらに、学習会については、これまでの「エイズ」に追加して「母性保護学習会」を形成することができた。なお、これら新たな試みの形成後の事業実施は、自己資金で実施した。

本事業の成果を列挙すると次のとおりである。

- ・ 男性基礎保健・エイズトレーニングの形成と 2 準区での実施
- ・ エイズ問題に関する危機意識と対処意識の乖離の確認
- ・ 村長老との関係構築という主要コンセプトの形成
- ・ 地域の健康のための戦略会議の形成
- ・ 地域の健康のための村訪問の形成
- ・ 公開学習会という主要コンセプトの形成
- ・ 母性保護学習会という新たな学習会の形成

また、本事業の課題については、事業実施のなかで確認された対象地域におけるエイズ問題に関する危機意識と対処意識の乖離が、エイズ問題に包括的に取り組む社会の形成の障害となっている点と関連している。この乖離の分析は、本事業計画時に想定していた事業実施過程に、新たに村での公開学習会にいたる一連の事業を追加することにつながった。一方、基礎的なトレーニングを実施した男性参加者へ、その後、追加的なトレーニングを実施して、村の保健リーダーとして育成する計画については、一旦留保し、新たな展開のなかでの男性参加者の役割や具体的な関与状況も確認しながら、今後の課題として再検討することとした。

以上

平成19年度[後期]活動助成

ケニア共和国東部州ムインギ県グニ郡
におけるエイズに対処する地域社会を
形成するための男性対象トレーニング

特定非営利活動法人
アフリカ地域開発市民の会
(CanDo)



参加者による簡易担架づくりの実技演習

地域における男性の役割を考慮し、緊急事態に必要となる応急処置や運搬を取り上げ、身近に入手可能な材料でできる簡易担架の作成方法を実習した。

撮影日：2008年7月10日
撮影場所：グニ郡ウカシ区カムティウ準区
NACカンザウ教会
ファイル名：IMG_2728.jpg



コンドーム実演の様子

コンドームを適切に使用するには、裏表を間違えないこと、先端の精液溜めの空気を抜いて装着することが重要である。

撮影日：2008年7月10日
撮影場所：グニ郡区カムティウ準区
NACカンザウ教会
ファイル名：IMG_2739.jpg



経口補水液(ORS)の作り方を実演する様子

下痢や発熱の際、脱水により生命に危険が及ぶことを家庭で予防するため、煮沸した水・塩・砂糖をもちいて、診療所で配布されている経口補水塩と同じORSを作ることができると、専門家が実演している。

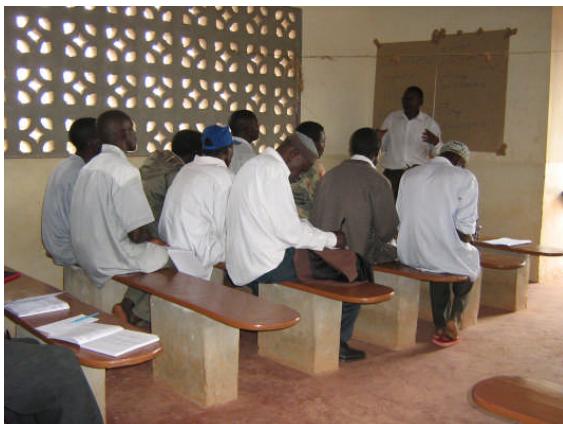
過去の女性トレーニングでも同様の実演を行っているが、水の煮沸や、下痢の際の補水の重要性やその方法など、男性にも直接伝えることで、地域でのより一層の定着を図っている。

撮影日: 2008年7月18日

撮影場所: グニ郡ウカシ区ウカシ準区

NAC ウカシ教会

ファイル名: IMG_2752.jpg



ケニア人保健専門家による講義の様子

トレーニングでファシリテータを務める専門家は、地元のグニ保健センターを定年退職した看護官であり、地域での評価が高い医療従事者であり、地域の文化や生活の現状も熟知している。参加者の母語であるカンパ語で講義を行なうことができ、参加者の理解の促進ならびに地域固有の社会状況にあわせた議論ができることが強みである。

撮影日: 2008年7月18日

撮影場所: グニ郡ウカシ区ウカシ準区

NAC ウカシ教会

ファイル名: IMG_2756.jpg



トレーニング会場の前にて

会場は、対象準区の助役が、行政の協力の一環として場所を無料で手配していただいている。20名程度が集まる場所として、教会が使われることが多く、エイズやコンドームの扱いが含まれることなどについて、教会関係者の理解を得た上で、トレーニングを実施している。

撮影日: 2008年7月19日

撮影場所: グニ郡ウカシ区ウカシ準区

NAC ウカシ教会

ファイル名: IMG_2765.jpg